

# 下北春まなの産地振興

## 要約

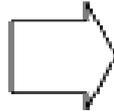
下北春まなは下北山村で古くから食されてきた地域特産野菜（漬け菜）であり、平成20年3月28日に大和の伝統野菜に認定された。

下北春まなは「春まな漬」、「粉末」および「青果」の3つの用途で出荷されている。

平成25年からJAを通じて下北春まなの村外出荷が開始されたが、まだ出荷者・生産量共に少ない。

## 現状(背景)と課題

- ・新規の村外出荷者の確保
- ・村外出荷量の増加



## 目標

- ・村外出荷者1名
- ・村外出荷量350kg

## 活動内容

- ・生産者及び下北山村商工会に対して下北春まなの生産の現状の調査を実施。
- ・下北春まなの栽培技術の向上を図るために栽培講習会を実施。
- ・被覆資材を用いた収穫時期の分散および被覆資材を用いた場合の最適な株間を検証するために展示圃の設置。
- ・採種方法の改善および新たな採種体制の提案。

## 成果

- ・新規の村外出荷者を1組織確保した。
- ・村外出荷量が381.6kgとなった。
- ・村内全体の生産量が2.7tから3.5tに増加した。
- ・被覆資材を用いることで生育が約1ヶ月促進した。



生産者への講習会



JA職員と生育巡回・出荷規格の確認



展示圃の調査



採種圃場の改善

## 普及活動のポイント

- ・生産者および下北山村商工会議所に対して下北春まなの用途別の生産状況を確認し、役場の担当者と今後の推進方向を決めた。
- ・推進方針を元に、下北山村役場から関係者へ生産に関する働きかけをおこなってもらうように要請をおこなった。
- ・下北山村役場およびＪＡならけんと常に連携をとり生産者に対して支援をおこなった。

## 対象の変化

- ・積極的に販路の拡大をおこない、青果物の新たな取引先を確保した。
- ・地域特産物である「春まな漬」の重要性を再認識し、「春まな漬」を通年販売できる体制を整えた。
- ・下北春まなの形質を均一に保つために、新たに採種圃場を設置した。

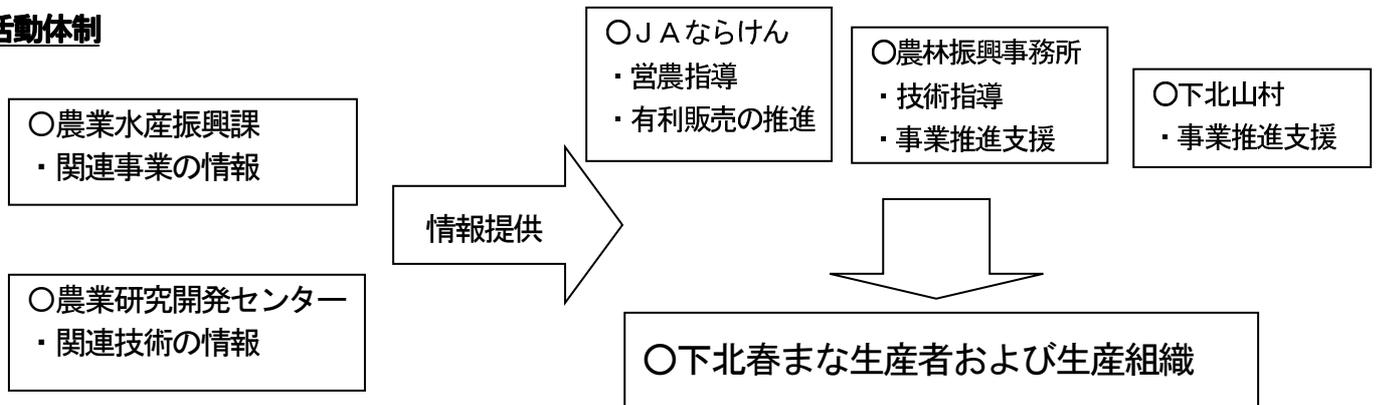
## 対象者からのコメント

- ・被覆資材の活用による生育の促進および栽培をするうえでの最適な株間が判明したので、平成29年度は展示圃の結果をふまえて栽培をおこないたい。
- ・被覆栽培をおこなうことで、気候の変化による生育の遅れを軽減できると考えている。

## これからの活動ビジョン

- ・被覆資材を用いた栽培は露地栽培と比べて生育の促進が図れることから、栽培面積の大半を占める露地栽培との収穫作業の分散を図り、生産者の栽培面積の拡大につなげる。
- ・平成28年度は生産量を大幅に増加することができた。それにともない、「春まな漬」の生産量も増え、平成29年度は1年を通じて販売が出来る見込みである。「春まな漬」の量が増えたことで、今年度は供給に対する需要の把握をおこなう。

## 活動体制



## 用語解説

### 春まな漬

下北春まなを浅漬けにした商品。村内の加工施設で漬け込み作業をおこない、真空包装された後に冷凍保存することで下北春まな本来の鮮やかな緑色を年間を通じて保つことができる。

南部農林振興事務所課 農業普及課  
担当：農産物ブランド推進係 梨原・井上  
大和野菜生産拡大支援事業